

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p> <p>ケア時に困難なことがあれば、会議を設け理念を思い出し介護にあたっている。</p>		<p>玄関にも大きく理念を掲げ、仕事はじめに理念を念頭におくように工夫した。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p> <p>カンファレンス時には理念を念頭におき、いかにすれば理念に基づいた介護が行えるか話し合っている。</p>		<p>申し送り時の復唱を行うなど、さらに理念を心におき仕事ができるようにと考えている。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p> <p>事前訪問、入居時に説明し同意を得るようにしている。また、地域交流の場にはできるだけ参加し、施設の内容を話すようにしている。</p>		<p>家人には担当者会議などの折に話をし、理解してもらっているが、地域への浸透が進んでいない。広報などを発行し、理解を深めるよう努力する。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p> <p>挨拶をかかさず行い、声かけを積極的にさせてもらっている。</p>	○	<p>行事の案内、広報などを発行し、親睦を深めるよう努力する。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p> <p>夏祭りや年末の防火訓練、毎月の清掃活動に参加させてもらっている。</p>		<p>校区行事や自治会行事に利用者の参加を少人数から始めていきたいと思う。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	安否確認など、行えることがないか自治会長に話をしている。	○	数か月に一度程度の介護予防体操の教室などを設け、安否確認や交流、介護予防を担う機関として利用して欲しいと思っている。施設が地域のボランティア活動を行えないか検討中である。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の目的を職員全員に周知し、協力を得ている。また、改善すべき項目がある場合は、職員が意見を持ちより改善を行うように努めている。		評価は玄関に開示し、家人も閲覧できるようにしている。また、職員にも毎回の評価後要改善点項目を伝え、改善案を出してもらっている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では毎月の行事報告や予定の説明を行っている。また、情報交換や報告を行い、サービス向上のために前向きに意見を取り入れている。		地域代表者の出席率が低いため、代理を立てていただけるように交渉を行っている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	些細なことも相談・報告を行うようにし、情報交換を行いながら質の向上に取り組んでいる。		業務的な相談だけでなく、あらゆる面での相談を聞いていただいている。調べたことなどFAXで返答いただけた。今後も情報交換を密に行い、利用者や地域にとっての情報発信の場になればと思っている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	パンフレットなど回覧し、様々な事業があることをまずは周知している。必要がある方、また申請を行っている方などの支援を行っている。		講習会があれば積極的に受講し、施設での勉強会に活かしていきたい。また、過去の事例を基に必要な手続きの流れなど学習の機会を設けたいと思っている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待・拘束については毎回のミーティングで話し合うようにしている。	○	講習の機会があれば積極的に参加していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書は前もってお渡しし、説明を行い十分理解された上での契約を行うように努めている。		一部の職員だけではなく、全職員が窓口になれるよう施設内で勉強会を設けていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見は積極的に聞くようにしている。また、要望などがあれば記録に残し、対応を職員全員で考え実施・反省を行い改善している。		利用者から職員に対し要望を伝えてもらえるようにはなっていたが、外部への相談は現在のところ見られてはいない。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	その都度面会時や電話連絡、また手紙で状態の報告を行っている。相談なども細かく連絡を行い、家人が安心できるように配慮している。		月一度の広報配布時に個々の家人に部屋担当者からその月の状態について手紙が添えられるようになればと思っている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会が比較的多いので、その都度話をするようにしている。要望は記録し職員に周知し、また介護方法を話し合い実践・反省・改善を行うようにしている。		外部への相談は現在のところされていない様子なので、外部相談機関の周知やアイスブレイク(最初に気楽に話せる雰囲気づくり)を行いたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの提案は上部組織に報告し検討を行ってもらうようにしている。また、上部組織からの提案なども職員に周知を行い実行するようにしている。		上部組織と現場の職種が異なるため、意見の相違は見られるが、報告相談を頻回に行うことで壁を崩していければと思っている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	休暇要望はできるだけ取り入れ、希望時に休みが取れるように調節している。管理者・看護師は利用者の常の状態を気にかかけ、緊急時は施設に駆けつけることができるよう配慮している。職員の不安をできる限り軽減できるよう努めている。		互いが譲り合いの精神で、休みを都合してくれている。無理な勤務にならないように配慮しながら、円滑な勤務組みを行っていきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	前管理者が定年を迎えたが、管理者は変更しても短期間ではあるが、安定した業務が提供できるよう配慮いただいた。また、新職員も早急に家人に案内し、また自ら率先して業務に当たったため、大きな混乱は見られていない。	○	職員が定着するよう、働きやすい環境、自分の意見が採用される環境などを設けるようにし、利用者に対しての人的環境が崩れないように配慮する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員には順に研修を受けてもらえるように心掛けている。また、研修で教わったことは現場でも周知し、知識・技術を共有できるように努めている。</p>	<p>研修だけではなく上級資格習得に関しても職員同士の情報交換などが積極的に行われている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修会で知り合った仲間と情報交換を行うようにしている。</p>	<p>現在、研修で交流を持った施設との相互訪問の話が出ている。知識や技術を持ち寄り、互いに向上できればと思っている。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>定期的に職員の話聞くようにしている。また、親睦会を設けるように努めている。</p>	<p>職員が日々短時間でも心身共に休憩が取れる環境を、確保できるよう様々なことを検討中である。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>管理者は上部組織への報告を密に行い、現場の状態を把握してもらえるように努めている。</p>	<p>月2回のミーティングにできる限り参加してもらおうようにしている。また、時間ができたときは立ち寄ってもらえるようにしている。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に十分に話をうかがうようにしている。また、入居前に利用者には施設に足を運んでもらい、必ず本人とコミュニケーションをとるようにしている。</p>	<p>今後も入居前からのコミュニケーションをとり、入所時の不安を少しでも軽減できるように努めたい。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用前に家人とも面談の時間を十分に設けるようにしている。その際、質問に対しても早急に返答し、不安の軽減などに努めている。</p>	<p>今後も入居前に十分話を聞くようにし、不安の軽減に努めたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	あらゆる可能性をまとめ、説明をしている。また、他サービスの検討なども同時に行い、自施設の利益追求ではなく、個人にあった生活の支援・助言を行うように努めている。		自施設の利益抜きに必要な人に必要なサービスが受けられるように、日ごろの学習を怠らないように努めている。情報源となれるように知識の向上に努める。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の性格や今までの生活スタイルを十分に把握した上で、多くの事を一度にではなく、より密着したサービスから開始し、その都度家人や職員、利用者で見直しをするように心掛けている。		情報収集で得た情報は記録し、職員全員が把握できるように心掛けている。また、短時間でも話し合う時間を設けサービスの質の向上に努めている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の今までの経験を多く聞き、しっかり耳を傾けることで喜怒哀楽を引き出し、同調することでコミュニケーションを図っている。個人を人生の先輩とし、様々なことを教わっている。		今後も会話の時間を多く設け、喜怒哀楽を共にし、家族として生活ができればと思っている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	介護計画や日常の様子を十分に報告・相談・説明し、喜怒哀楽を共有するように心掛けている。		利用者の家族も家族とし、介護職員の一人として参加してもらえるように説明を行っている。結果外出なども増え、その時の状態を報告してくれるようになってきている。今後も共同で個人を支えるようにしたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族からも本人からも話を聞き、どのような関係であるかを把握した上で、円滑なコミュニケーションが図れるよう支援を行っている。		遠方の家人には電話や手紙を利用者宛にできる限りお願いしたりして、今までの絆をたたないようにしている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	実家付近や馴染みのある場所にできる限り出かけ、昔の話を聞くようにしている。また、馴染みの人と会った時はゆっくり話ができるように支援を行っている。		利用者の知人が尋ねて来られたりすることがあるが、家人に面会に対する意見を聞き、家人や利用者のプライバシーを守るように心掛けている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	家事手伝いを職員も交え利用者同志でできるように支援を行っている。行事・外出などでは仲の良い利用者で出かけられるように支援を行い、より親睦が深められるように配慮している。		利用者に利用者のことをお願いしたりして(洗濯たたみや声かけなど)お互いに話をする機会を設けている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	疾患のため退所された利用者のお見舞いなどにも家人の許可を得て足を運んでいる。また、家人から近況を尋ねる機会があれば話をうかがい情報を交換している。		今後も手紙や電話連絡、訪問などを行い精神的な支えになることができればと思っている。職員同士でも情報の交換ができており、退所された後でも個人を大切にしてくれている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ミーティングやケアカンファレンスで本人の希望などを検討し、介護計画に取り入れるようにしている。		時間ができたときに利用者本人と話をしたり、どのような生活を望んでいるのかを話し合っている。意見を出す機会を設けることができるようになったことで、介護にあたるときの意識が変化すると職員から成果の声が聞かれるようになった。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から詳細な話を聞くようにしている。入居時の聞き取りだけではなく、日常の会話から知れた情報は報告、記録し情報の共有を行い、背景を知るように努めている。		今までの暮らしを知ることで、施設での生活で足りないもの不満に思っていることがあるかもしれないため、情報の共有を徹底して行い、把握に努めるようにする。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人・利用者から話を聞くようにしている。入居時の情報だけではなく、日々の会話からも聞き取り、記録に残すようにしている。		短い時間でも話を聞くようにし把握に努めている。また、聞き取った情報からできる限り、家での生活時間に合わせた生活ができるように援助している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家人、また職員からも情報を聞きアセスメントを行っている。課題設定も、職員では部屋担当者を中心に利用者本人にとっての優先順位を考えている。様々な方面からの話を聞き、豊富な介護計画を立案できるように心掛けている。		職員から出たアイデアは必ず家人に説明し、了承をいただいてから行うようにしている。また、家人からも案を募集するようにしている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	些細なことでも状態の変化が見られるとモニタリングを行い、再アセスメント、介護計画の立案を行っている。状態の変化も家族に説明した上で、見直しを行うようにしている。		状態は常に変化しているため、早急に変更ができるように心掛けている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	できる限り午前・午後に分けて記録を行うようにしている。また、小さな変化や、行動障害の種類や原因など知れた情報は記入するように心掛けている。		情報の収集や記録の重要性を職員に常日頃から説明し、小さなことでも感じたことを、記入者の言葉、利用者の言葉をそのままに記入し、後で見た人にもわかりやすい記録になるように心掛けている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状態の把握に努め、施設自体がフォーマルサービスだけではなくインフォーマルなサービスも提供できないかを常に考えている。		新しいサービスの開拓や、今、自分たちが何を行えるかを把握し、できることは行っていこうにしたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアによる演奏会などを取り入れている。	○	慰問・ボランティアの回数、バリエーションを増やしスタッフだけでは提供できない刺激を提供できればと思っている。散歩時に知り合った方がハーモニカを演奏してもらえたり交流もあったので、人の縁を大切にしていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他施設のケアマネジャーとの交流を持ち情報の交換は行っている。訪問理・美容や共同購入の利用を現在検討中である。		訪問理・美容、共同購入に関しては現在話を進めている。少しでも利用者への刺激になればと思っている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会時、情報交換を行い助言を受けている。		運営推進会時だけではなく、必要時に報告・相談を行い適切な支援を提供できるようにしたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望のかかりつけ医に状態の管理をお願いしている。また、ホームドクターに2週間に一度の往診を依頼し、常の状態の把握に努めている。また、気にかかることがあれば早急に報告・相談を行い異常の早期発見・早期対応に努めている。また、家人にも常に報告をしている。		今後も各かかりつけ医との連携を密に行い、異常の早期発見・早期対応に努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医への報告・相談を行い、より落ち着いた日常を送れるように支援を行っている。	○	専門医にかかっている利用者が少ないため、必要性を家族に説明し、専門かかりつけ医をつくってもらうように協力依頼する。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームドクターの病院看護師と情報の交換を行っている。また、施設看護師が日常の健康管理を行っている。		施設看護師は先輩や友人、また関連機関や教師などに連絡を取り、日々の知識向上に努めるようにしている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	介護添書を作成し、病院側にも日常を把握してもらうようにしている。また、病院看護師などにも話を聞き、状態の把握に努めている。退院時カンファレンスを設けてもらい、情報を収集するように心掛けている。		病院側看護師と施設看護師間で十分な情報交換ができるよう、介護添書だけでなくお見舞い時にも話を聞くようにしている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化や終末期について話をする時間を設けている。その時に方針を明確にし、文章で取り決めを行っている。		終末期の家族の思いはその時々々の精神状態や利用者の状態、個々の考えや思いに大きく左右されるため、その都度情報の提供、確認を繰り返し行うようにしている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	常に医師・家族・職員で情報の交換や話し合い、また状態の説明を医師から行うようにしてもらっている。できることを明確にし、できないことは他専門機関に依頼する、もしくは他の方法を考えるなど最後まで個人が個人らしく生活ができるように支援を行っている。		検討を重ねた結果、法的にできないことについては家族に了承いただいている。また、技術が未熟であるために不安がある場合は、施設看護師、ホームドクターを中心に勉強会や指示をいただき、技術の向上に努めている。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	前任ケアマネジャーからの情報の収集、利用者本人・家人・医師など関係者から細かく話を聞き、できる限り以前の環境に近づけるように支援を行う。こちらから移る場合も同様に情報提供を行うようにする。		小さなことも情報提供する。提供することで少しでも利用者本人に不安が生まれないように努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとり、人生の先輩として尊厳を保つように心掛けている。また、気にかかる声かけなどがあった場合、当該職員に指導し、プライバシーや尊厳を守るように努めている。	個人情報徹底して守り、流出のないように職員に周知している。また声かけひとつにしても利用者同士のプライバシーを守るように配慮する。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個人が選択できるように選択肢を分かりやすくする。いくつかの選択肢を用意し、自分で決定し日常を送れるように支援を行っている。	飲み物の種類の説明や、衣服の選択を行うことで生活に張り合いを持ってもらうように支援を行っていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調を配慮しつつ、日々の生活をその人らしく過ごせるように努めている。	今までの生活スタイルを把握し、それに沿った生活ができるように配慮している。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望があれば馴染みの店にいけるように支援を行っている。遠方の場合は家人に依頼している。	服や化粧など、女性は特に個々の楽しみを持っているため、何時までも行えるように声かけなどの支援を行っている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成時は広告を広げたり、料理の本を一緒に見たりして決めるようにしている。また、食事は職員も同じものを同じ時間帯にいただくことで団欒の中で食事を楽しめるように支援を行っている。	買い物も一緒に行い、調理も行い、できる限り一緒に行ってもらうことで食事の楽しさを感じて欲しいと思っている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒希望もできるが、医師・家人より控えるようにいわれている方に関して、その都度説明をさせていただいている。かわりに15時に甘酒を頂くなど、代替を行うようにしている。タバコは遠慮いただいている。他嗜好品に関しては、医師・家人との相談の上、渡すようにしている。	希望があれば、医師・本人・家人との相談取り決めのの上、楽しんでもらうようにする。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間ごとに声かけを行い、リズムを整えるようにしている。排泄時間を記録し、把握することで、トイレで排泄が行えるように支援を行っている。		立位が困難な利用者であっても「トイレで排泄させてあげたい」という職員の思いで、できる限りトイレで排泄できるように支援を行っている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日は決めているが、臨機応変に対応を行えればと思っている。	○	入浴希望時に入浴が行えるよう業務内容の見直しを行いたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活リズムを確立し、日中は適度に体や頭を使うようにし、夜間の睡眠が適切に取れるように支援を行っている。		ナイトドリンク(お茶)を取り入れ、精神的に落ち着いた状態で入眠を促すようにしている。また、不眠を訴えた時も話を聞くようにし、落ち着いた状態で床に入れるように支援を行っている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事の手伝いや作業、レクリエーションなど、参加希望をとって行うようにしている。菜園なども楽しんでいる。		個人差が大きいですが、新しい趣味を見つけることができる手助けになればと、様々なレクリエーションを提供できるように心掛けている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の希望もありお金を自己管理している人は少ないが、所持したい人は金額は少ないが手持ちを持ってもらうようにしている。時々手持ちからお菓子代を支払われたりしている。		個人管理ができる人を増やしていけるように支援方法を考えたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	積極的に散歩やドライブの声かけは行うようにしているが、利用者の気分により大きく左右される。利用者同士で声をかけ合った場合、出かけられる方が多いので、利用者にも誘ってもらえるよう依頼をすることもある。		その日の気分により散歩に出かけられない利用者もいるが、他の選択肢を設け、できるだけ天気の良い日は日光浴ができるように支援を行っていく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の希望を聞いた時は家人に伝えるようにしている。ドライブや喫茶店など、外出への協力をしてくれる家族が増えた。		今後も利用者の声を家族に伝え、外出支援をできればと思っている。介護方法(車椅子の押し方やトイレの介助の仕方)などを家族に伝えることで行きやすくなるのではないかと考えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、電話の援助を行うようにしている。また、郵便物が届いた際にも、本人に手渡し、差出人など聞ける範囲で把握、家人に報告を行っている。		難聴の強い利用者に対しての電話の支援方法を考えるようにする。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間の制限は設けていない。湯茶やお菓子の用意をしている。湯茶は利用者が運んでくれることもある。相手の希望される場所での談笑面談を実施している。		家人の面会は比較的多いので、今後も気兼ねなく来ていただけるように、信頼関係や家族にとっても居心地のよい空間をつくれるように努める。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どのようなことが拘束につながるかを職員全員で考えるようにしている。該当することがあれば話し合い、必要時以外は行わないよう徹底している。必要が予測される場合、介護計画に記載し、家人の了承のもと、確実な記録を持って短時間のみで行うようにしている。		常に身体拘束はないように職員で話し合い、必要時は短時間で拘束を解けるように心掛けている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	天気のよい日は窓やドアを開けるようにしている。施錠の必要がある場合は家人・本人に説明し施行している。	○	設置条件上、施錠が必要なこともあるが、できる限り施錠を行わないように努めている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	事務所はフルオープンとなっており、状況を観察している、また、利用者がどこで何をしているか、その日の職員は全員で把握するようにしている。		人的環境を整備することで、個々の状態を把握し、事故のないように努めている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品の保管には施設全体で留意している。個々の認知レベルにより、自己管理できる者は居室に置くようにしている。自己管理物については家人にも報告し、状況に合わせて相談を行い、管理方法を検討している。		掃除時にたんすなどの中をチェックさせてもらっている。誰にとっても危険な洗剤や薬品は鍵のかかる場所で管理を行っている。刃物は数を数え、体温計なども数の把握を都度行っている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止については、事故防止対策委員会を設け話し合いをするようにしている。他施設での事故などがあった場合は、それについて考察し、自施設のマニュアルの見直しを行うようにしている。		防火管理が義務化されることから、職員全員が防火管理者になれるように、順に講習を受けるようにしていきたい。また、事故がなくてもヒヤリハットなどからマニュアルを見直し、事故防止につなげたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成している。また、勉強会を設け定期的確認をしている。	○	個々に対応方法が違ってくこともあるので、この対応マニュアルを作成できればと思っている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災については連絡網で連絡ができるように配備している。地域の災害訓練に参加し、地域住民とコミュニケーションをはかり、協力を依頼している。	○	夜間対応に関し見直しの必要がある。また、地震時対応も考える必要がある。家人にも依頼し、早急な安全確保が行えるようにしたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所時にリスクマネジメントについて話をするようにしている。また、状態が変動することでリスクも変動するため、その都度家人と話をするようにしている。必要があるものについては介護計画に取り入れる。		最大限の防止対策を行ったうえで、事故が起こった場合は早急に適切な対応ができるよう職員間でも日常的に話している。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	気にかかることは必ず他職員にも声かけを行い、記録に残すようにしている。また、毎日バイタルサインを測定し状態の把握に努めている。家人、医師への報告も同時に行っている。		朝の引継ぎ時、また遅出出勤時に個々の状態について声かけを行い把握に努めている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬については一律して施設看護師が管理している。変更があった場合には連絡ノートに記入し、周知を行っている。また、記録もその都度行うようにしている。内服薬説明書を記録にもとじ、どのような作用、副作用があるか周知するようにしている。		看護師不在時に急な服薬や変更があった場合には、その都度、看護師に連絡するようにしている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	時間ごとに声かけを行い、トイレに誘導している。一日の水分補給量や排泄についてチェック表を作成し記入している。便通に関し必要がある利用者は内服薬でコントロールしている。また、腹部の運動を習慣体操に取り入れ、腸蠕動を促進している。		できる限り内服は行わず、水分補給や運動で排泄ができるように管理を行っていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後に口腔ケアを実施している。自分でできる人は見守りで歯磨きやうがいを施行してもらっている。また、適切に水分を摂取することで唾液分泌を促進し、自己清潔が行えるように配慮している。		義歯の取り扱いについて利用者に勉強会を行っていき、自分でできることを増やしていければと思っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態や好み習慣を考慮し食事を用意している。できる限り自分で摂取してもらえるように環境を整えるようにしている。		職員同士が声かけを行い、量や味付けに気をつけるようにしている。職員も利用者と同じものを食べることにより、食べにくいものや味付けなどの情報源としている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	看護師が勉強会を開き、対応を行っている。職員が率先し、手洗いうがいを行うようにしている。また、講習などにも積極的に参加し職員にも周知するようにしている。		清潔に必要な物品の点検や、管理を行い、蔓延に留意する。施設の鉄則である「持ちいけない・持ち出さない」を徹底する。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材はできる限り新鮮なものを使用するように心掛けている。定期的に料理器具の消毒を実施している。		勉強会や参考資料の配布を行い、予防を徹底している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	スロープを設け、出入りしやすい環境を整備している。玄関に段を設け季節の花を植え、利用者とともに世話をするようにしている。看板などは目立たなくし、施設感を出さないようにしている。		ウェルカムボードを季節ごとに作ることができればと思っている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには生け花を取り入れて季節を感じてもらおうようにしている。また、過度にならないように季節にあった飾り付けを行っている。光の強さや空調などにも考慮し、空気の入替えや照明の調節に留意している。		今後も快適に過ごせるように配慮していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、2階リビングにはソファやテーブルを設け、談笑できるようにしている。壁には絵を掛け、落ち着ける空間を保持できるようにしている。居室は全室個室で自分の時間・空間を持てるようにしている。		2階フロアにはあえて、多くの物を置かず、会話を楽しめる空間としている。気の合う利用者同士で話をする姿も見られる。また、1階フロアが来客などで騒がしい時には、2階フロアで落ち着いて談笑できるようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具は施設のものを使われている方がほとんどだが、使い方は個々に合わせるようにしている。家族の写真を飾ったり、馴染みの物を持ってきてもらうようにしている	○	利用者によっては、すぐに片付けてしまいどこに片付けたか分からなくなるが、できる限り馴染みのものを持ってきてもらうように働きかけている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は定期的に行うようにしている。日頃からこまめに掃除を行うことにより臭いがしないように配慮している。また、空気の入替えを説明後に行うようにしている。		外部から入った時にも空気の上よみなどがないように配慮している。今後も空調を適切に行えるように努める。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーであり、必要箇所に手すりを設けるようにしている。また、歩行に不安が見られる利用者には適切な補助具を使用してもらい、安全・安楽に移動ができるように配慮している。		個人個人の能力に合った移動方法を探し、安全に移動してもらえるように援助を行う。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	不安や混乱を招くものは早期に排除し、誤解を招くようなものは極力置かないように留意している。		日常的に使うものは適切な場所におき、その都度説明などを行っている。利用者の言動に留意し、さりげなく支援を行うことで自立に近い生活ができるよう努める。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキで日光浴ができるように心がけている。また、めだかの飼育や、プランタ菜園、さくらんぼや柿などを利用者と世話をし、収穫を楽しんでいる。		立地条件から庭が狭く大きな菜園はできないが、プランタで作れるものは作り、収穫の喜びを共にしたいと思っている。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

報・連・相に対する意識を高めることで、職員同士の情報交換が活発になり、介護方法の相談などが以前に比べ行われるようになった。結果、利用者の要望を汲み取ることができ介護方法の幅を広げることができるようになったと思っている。職員一人ひとりがプロとしての自覚と誇り、責任を持つことで、研修会などにも積極的に参加、また上級資格習得への意欲へとつながっている。

認知症患者としてではなく、人生の先輩として観察させていただくことで新しい発見があったり、新しい可能性を見つけることができるようになり、以前にも増して対話の時間が多くなったように思う。今後も個人個人の過去、現在、そして今からの姿を把握・想像することで、心と体に寄り添うことができる介護施設を目指したいと思っている。